

令和 4 年度モニタリング結果

1. 農業被害アンケート調査

1.1. 目的

シカによる農林業被害の状況把握、各地域における対策内容の検討、捕獲実施地域の選定、対策（捕獲、防鹿柵設置等）による被害軽減効果の把握のため、アンケートによる調査を行った。

1.2. 方法

農業被害アンケート調査は図 1-1 に示す地区の農協組合員（正組合員、2,301 名）及び水利組合員（帯解地区のみ、44 名）を対象に、アンケート調査票（資料末ページに添付）を余部含め 2,626 通配布し、郵送で回収した。アンケート調査票は令和 4 年（2022 年）9 月上旬に送付し、令和 4 年 9 月末まで回収した。

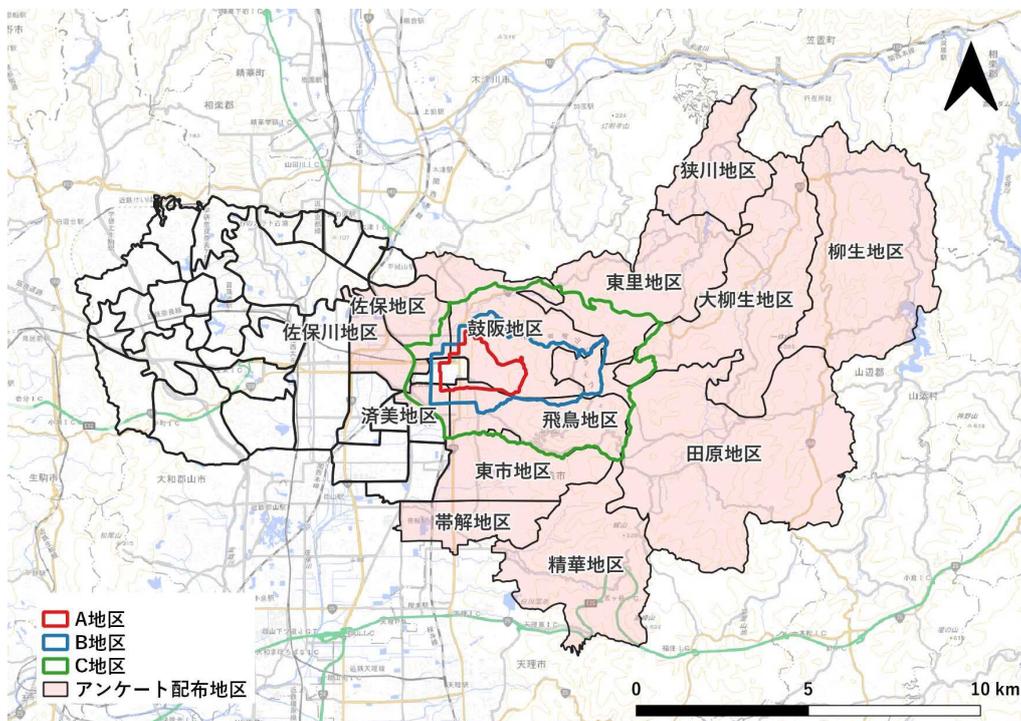


図 1-1 アンケート配布地区

※ 1 農協の組合員について

- 農協の組合員は、地元の JA に出資した者 が加入できる。このため、農協の組合員になってもなくても営農している世帯がある。
- 正組合員 の条件は 10 アール以上の土地を耕作し農業を営む個人または法人 である必要がある。
- 准組合員 は 10 アール未満の土地を耕作し農業を営む個人または法人ものでも出資すれば加入することができるが、農業を営んでいなくても資格、条件を満たしていれば加入することができる。

1.3. 結果（回答状況、被害状況）

1.3.1. 回答状況

集計状況を表 1-1 に示した。正組合員数 2,345 名のうち、回答があったのは 607 通（25.9%）であり、過年度調査の回答率より減少した。地区別の回答率は、帯解地区が最も多く（50.0%）、次いで鼓阪地区（33.3%）、飛鳥地区（30.0%）であった。なお、回答率は、H30 年度及び H29 年度はアンケート配布数に対する回答率を示しており、R1 年度及び R4 年度の農協会員数に対する回答率とは異なる。

表 1-1 アンケート対象地区と送付数および回答率

対象地区	地区区分※1	正会員数 (戸)	回答数 (戸)	回答率 (%)			
				R4 年度	R1 年度	H30 年度※2	H29 年度※2
東里地区	C, D	183	53	29.0	36.9	28.7	24.9
田原地区	B, C, D	502	124	24.7	48.1	28.5	25.5
狭川地区	D	148	44	29.7	35.8	27.3	22.4
鼓阪地区	B, C, D	120	40	33.3	33.6	26.8	29.1
飛鳥地区	B, C	80	24	30.0	44.4	23.2	18.8
柳生地区	D	309	77	24.9	31.8	21.1	17.0
大柳生地区	C, D	322	68	21.1	32.5	19.6	16.9
佐保川地区	C, D	91	18	19.8	18.3	19.1	10.6
精華地区	D	264	51	19.3	19.9	18.7	19.7
佐保地区	C, D	0	14		17.0	14.5	9.1
済美地区	B, C, D	31	6	19.4	7.9	12.2	2.4
東市地区	C, D	251	54	21.5	25.5	8.8	17.0
帯解地区※3	D	44	22	50.0	92.9	-	-
不明	-	-	12	-	-	-	-
総計	-	2,345	607	25.9	33.9	22.4	21.5

※1 各地区自治連合会に主に含まれる地区区分。A 地区が含まれるところもあるが、A 地区には農地がないため除外。

※2 H30 年度及び H29 年度はアンケート配布数に対する回答率を示しており、R1 年度及び R4 年度の農協会員数に対する回答率とは異なる。

※3 帯解地区は R1 年度調査からアンケート配布地区に含まれた。水利組合員を対象にアンケートを配布した。

※4 赤字は令和 5 年度以降の防鹿柵設置対象に選定した地区（資料 3-7）。

1.3.2. 被害有無

図 1-2 に集計結果を示した。比較のため過年度調査結果を図 1-3 に示した。

全回答者のうち約 72%がシカの被害があると回答があった。多くの地区で 50%以上が「被害がある」と回答し、特に鼓阪地区では 95%が「被害がある」と回答した。一方、市街地が大部分を占める佐保川及び佐保地区では「被害がない」との回答の割合が高かった。

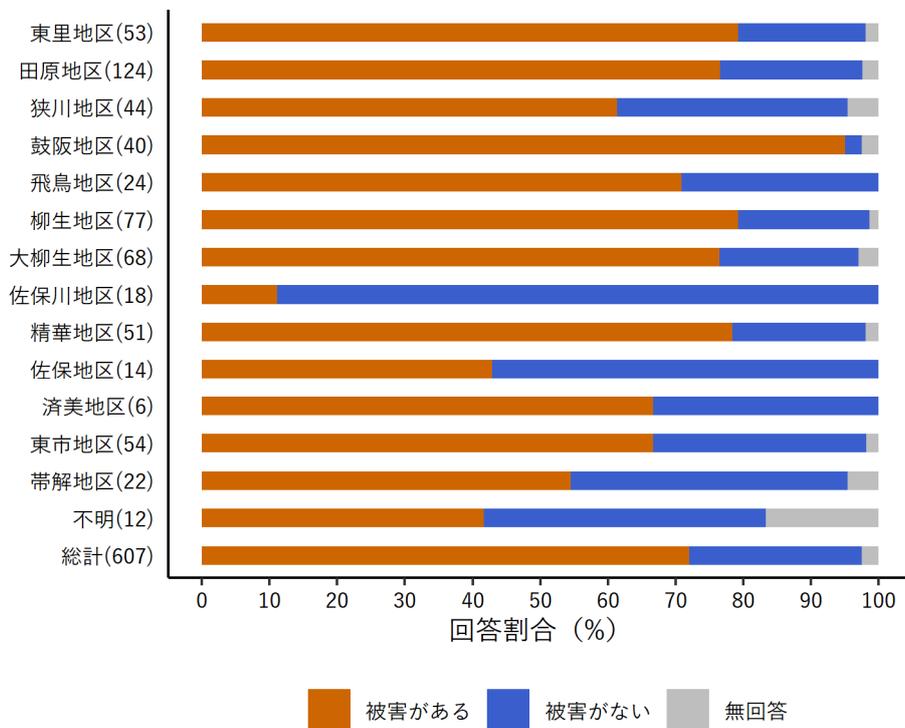


図 1-2 地区別のシカによる被害の有無

()内は有効回答数

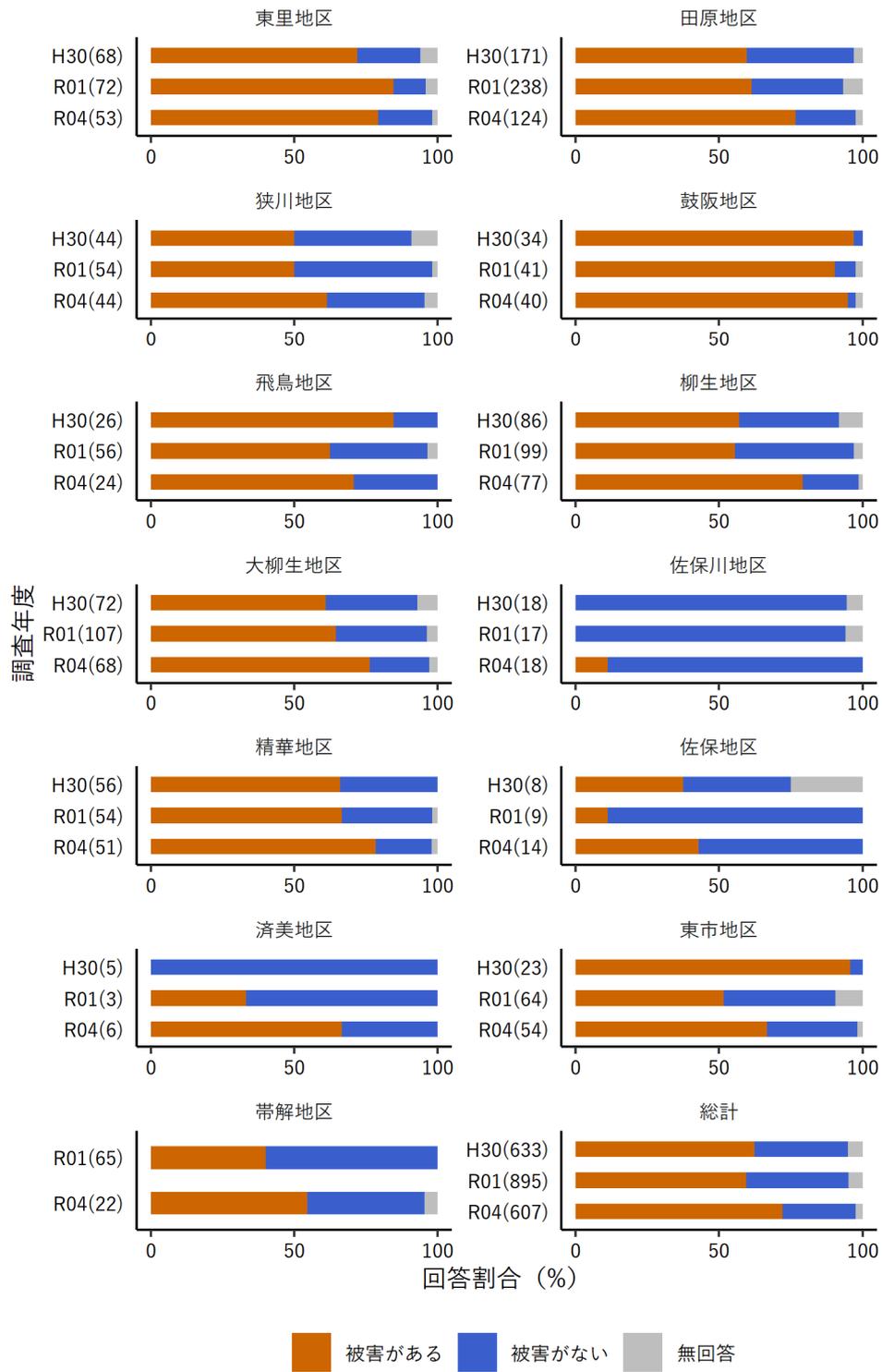


図 1-3 地区別のシカによる被害の有無の変化

()内は有効回答数

1.3.3. 被害意識

1.3.2. で「被害がある」と回答したものを対象に、令和元年（2019年）と比較した令和3年（2021年）の農作物被害意識について調査した。図1-4に水田及び畑の集計結果、図1-5に過年度調査の集計結果を示した。また、図1-6に地区別の「増加」の回答割合を示した。

水田及び畑について、回答があった多くの地区で、令和元年と比べて令和3年は被害が「増加」、または「変わらない」と回答した人が多く、過年度調査結果に引き続き被害意識が高かった。

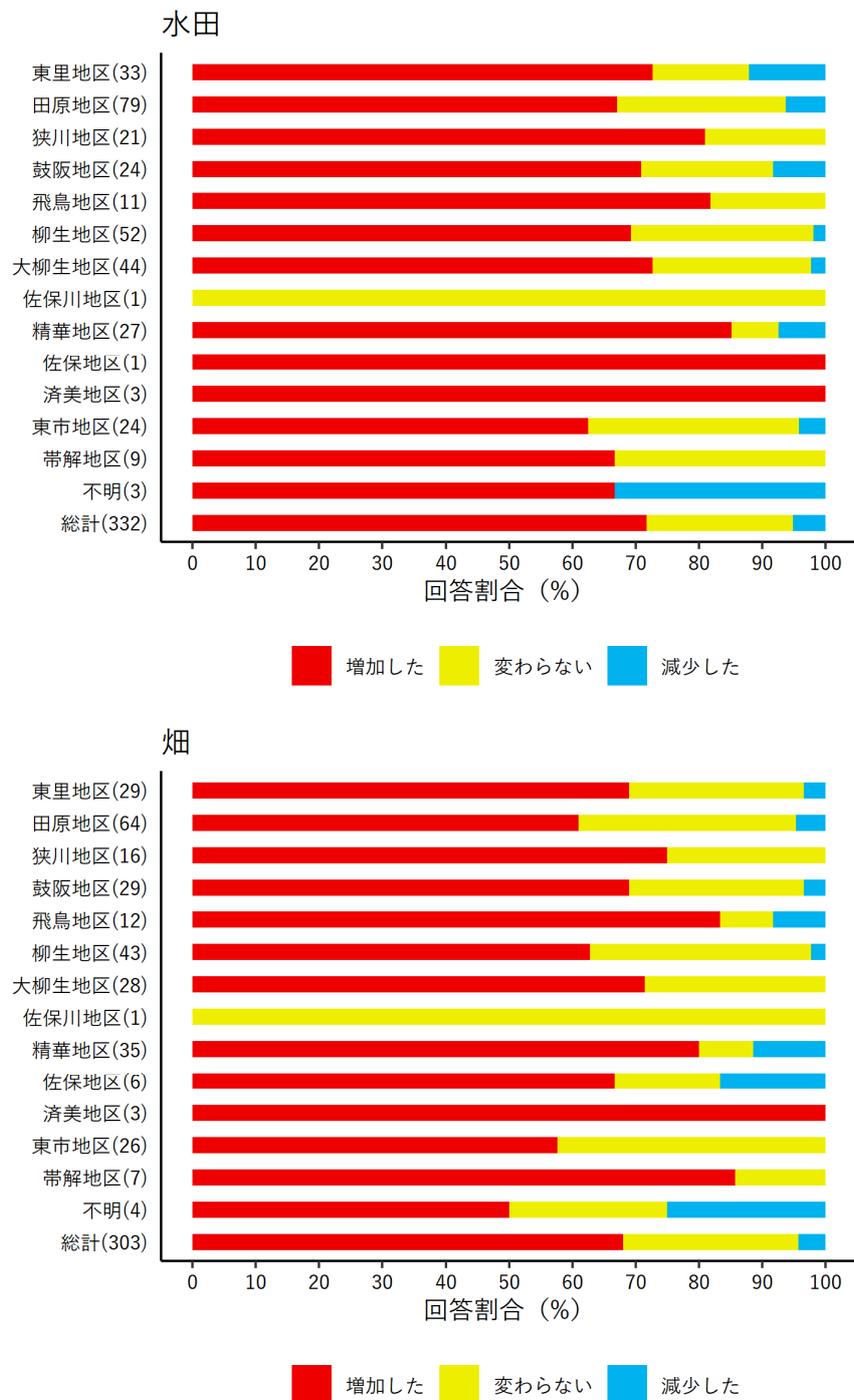


図 1-4 R1年と比較したR3年の被害意識

() 内は有効回答数

水田

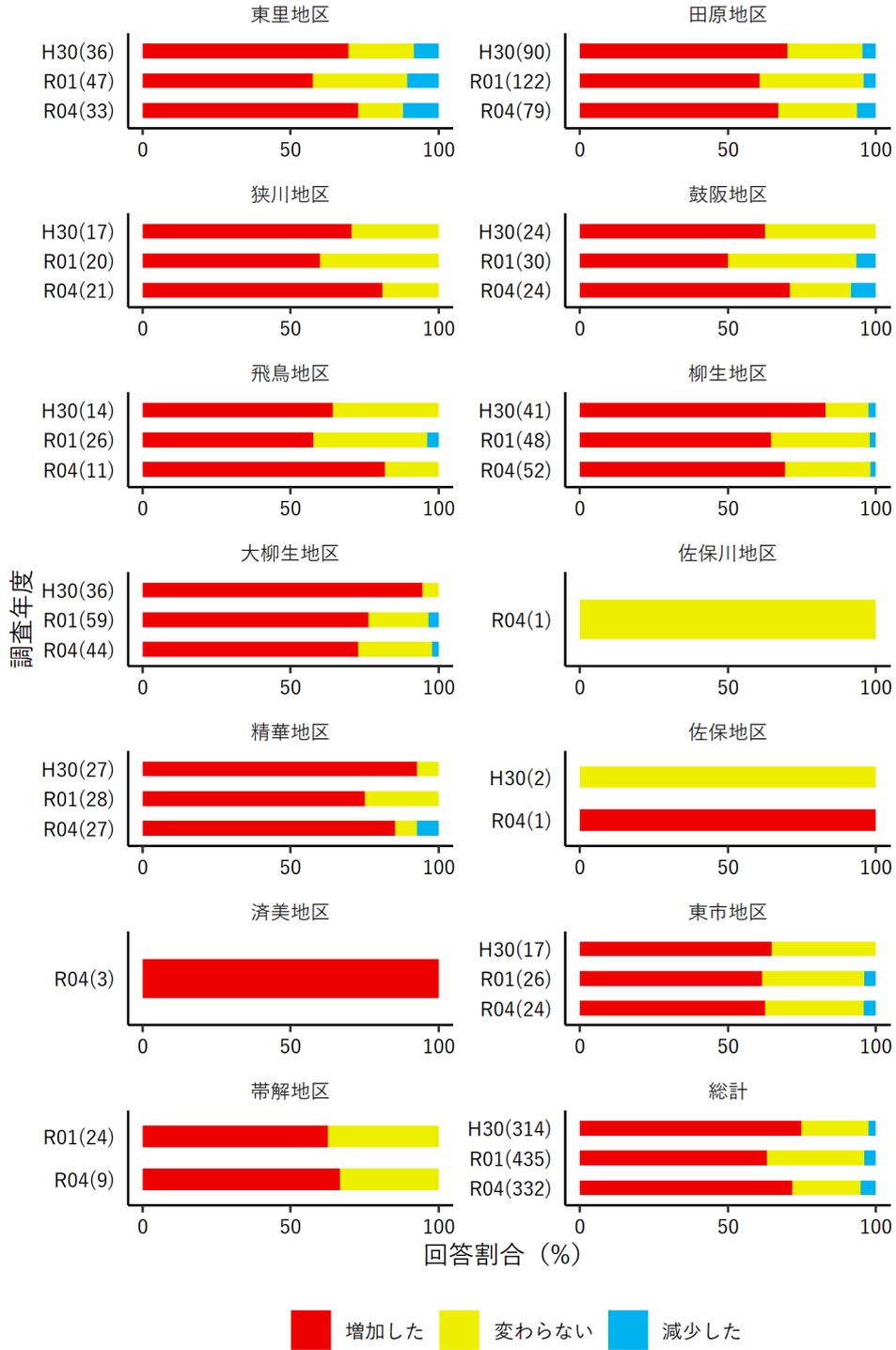


図 1-5 (1) 被害意識の変化 (水田)

(H30 年度調査は H28 年度以前と比較した H29 年度の被害意識、
R1 年度調査は H30 年と比較した R1 年の被害意識、
R4 年度調査は R1 年と比較した R3 年の被害意識)

() 内は有効回答数

畑

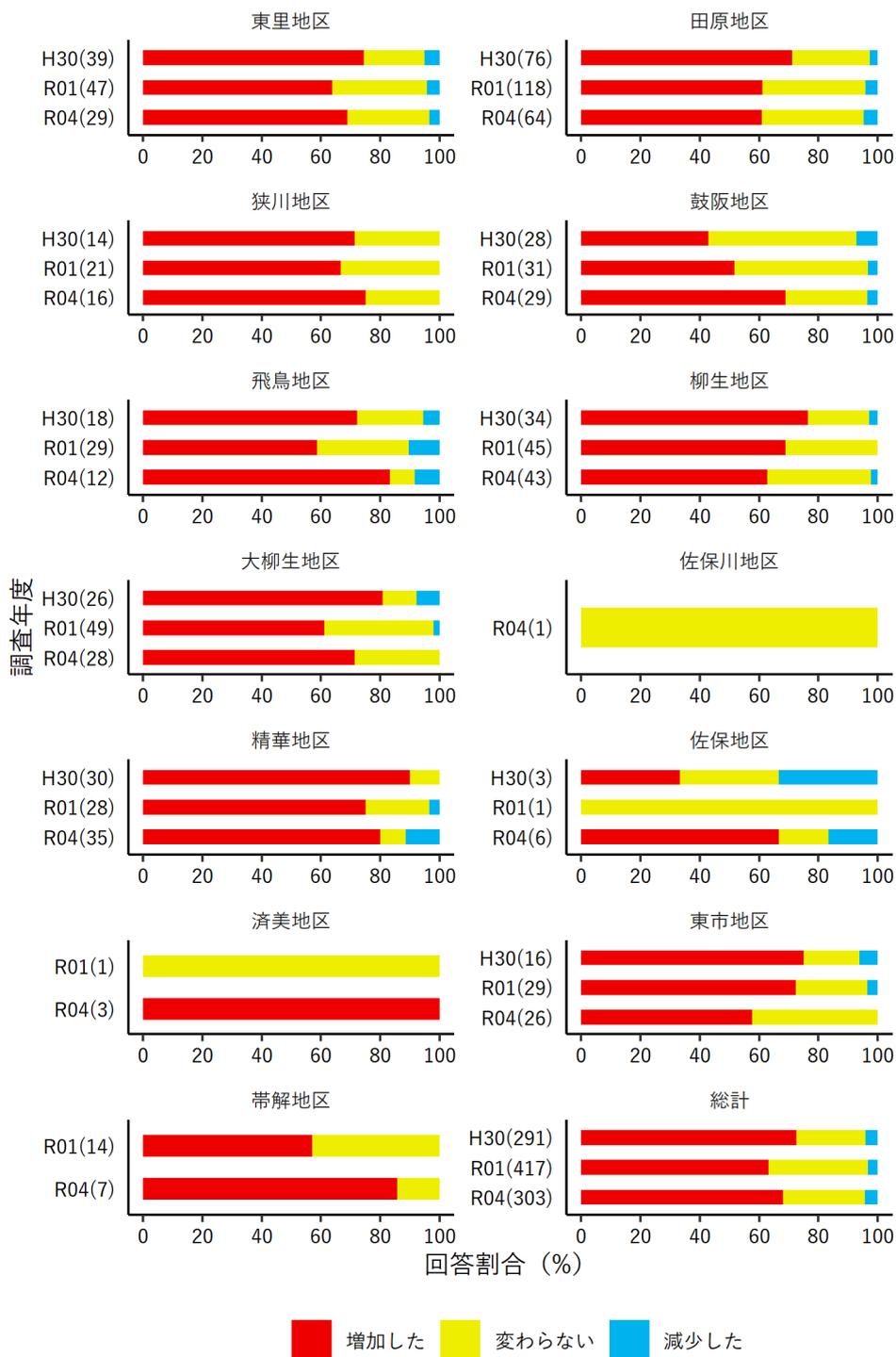


図 1-5 (2) 被害意識の変化 (畑)

(H30 年度調査は H28 年度以前と比較した H29 年度の被害意識、
R1 年度調査は H30 年と比較した R1 年の被害意識、
R4 年度調査は R1 年と比較した R3 年の被害意識)

() 内は有効回答数

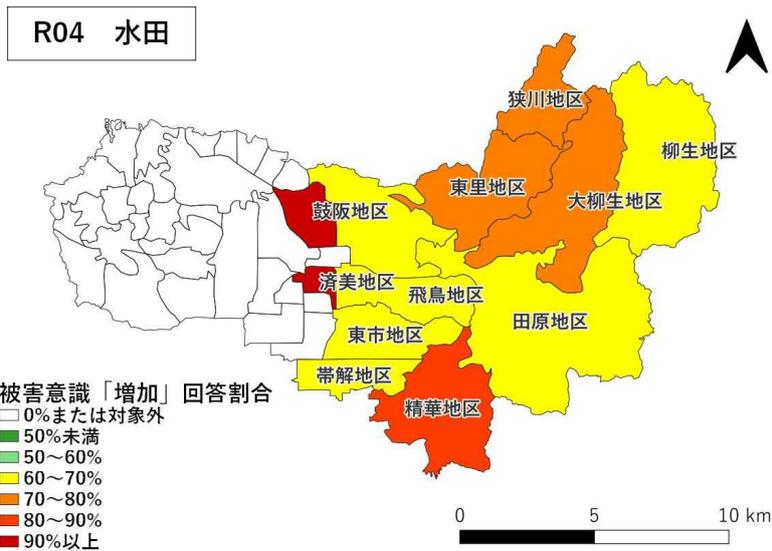
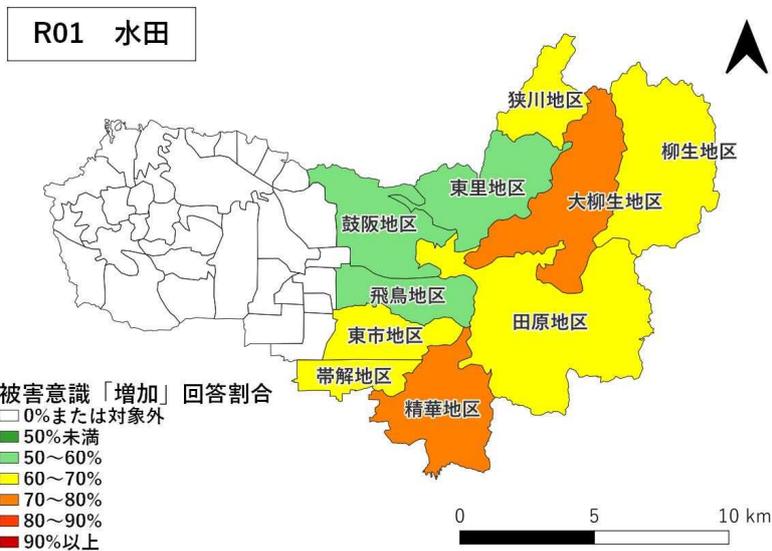
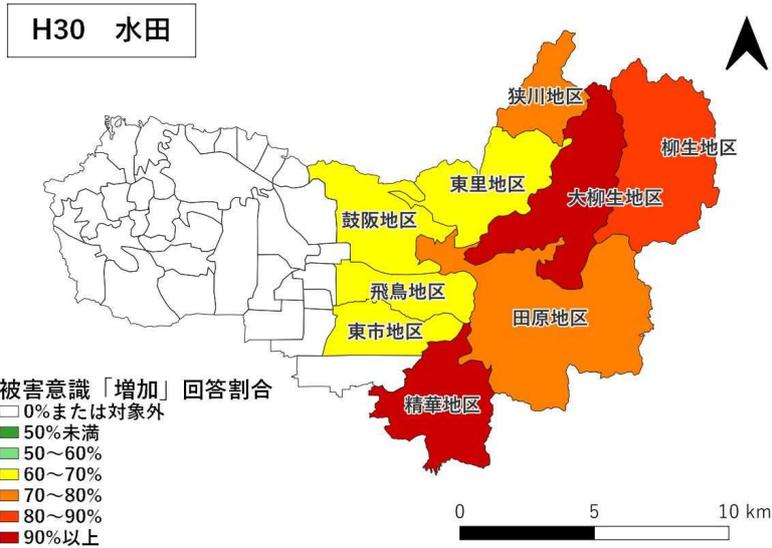


図 1-6 被害意識「増加」の回答割合（水田）

※アンケート対象地区のうち、着色していない地区は被害の報告がなかった。

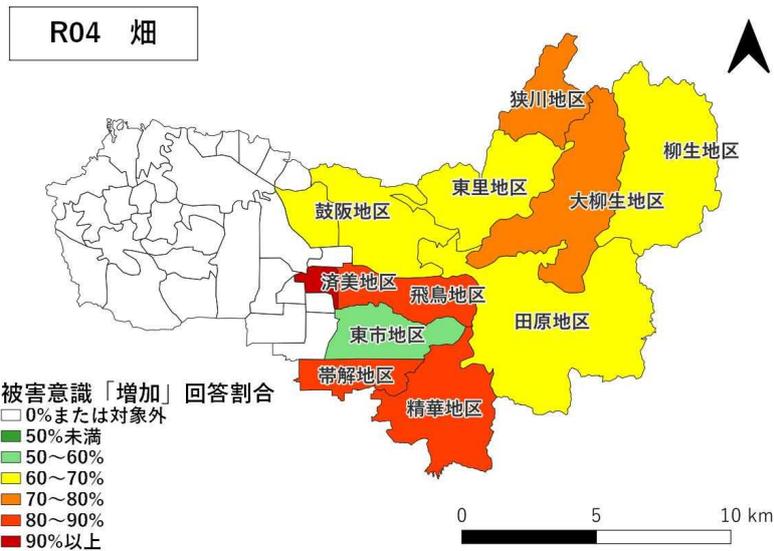
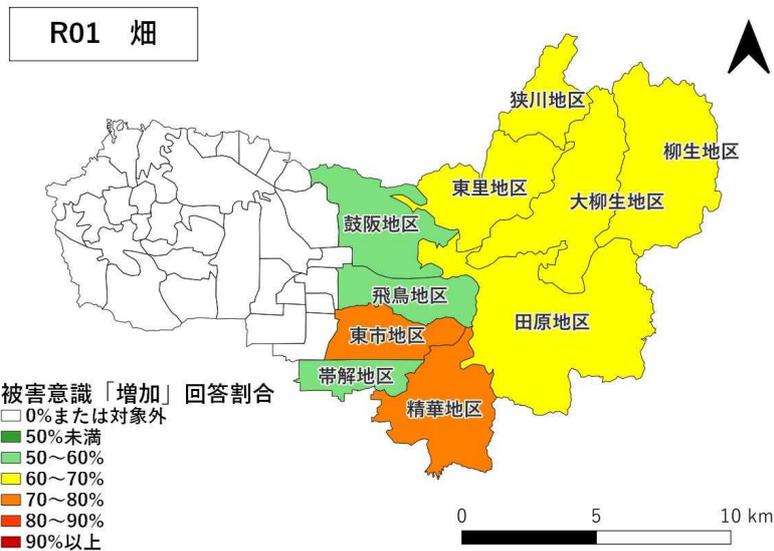
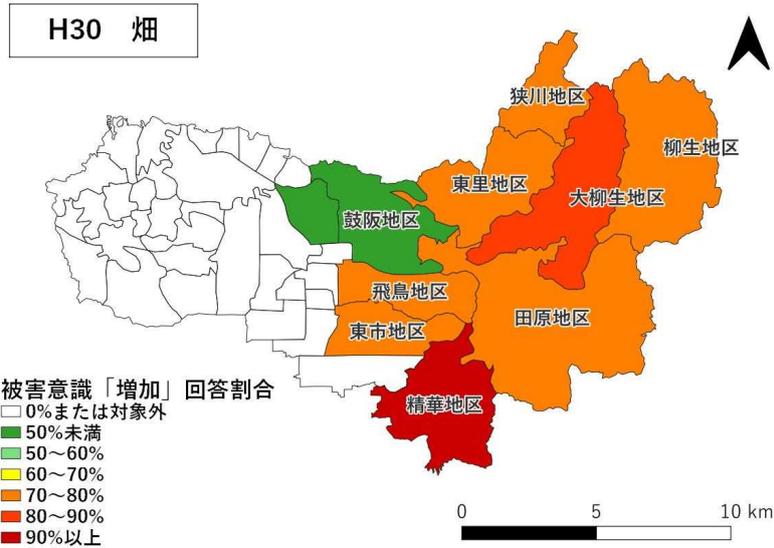


図 1-7 被害意識「増加」の回答割合（畑）

※アンケート対象地区のうち、着色していない地区は被害の報告がなかった。

1.3.4. 捕獲実施による被害意識の変化

過年度アンケート調査結果を用いて、捕獲実施による被害意識の変化を把握した。

平成 30 年度アンケート調査結果からは、(1) 平成 30 年度に捕獲を実施した集落における回答者、(2) 平成 30 年度に捕獲実施しなかった集落の回答者に分け、令和元年アンケート調査結果からは、(1) 平成 30 年度または令和元年度に捕獲を実施した集落における回答者、(2) 両年ともに実施しなかった集落における回答者を分け、令和 4 年度アンケート調査結果からは、(1) 平成 30 年度から令和 3 年度に捕獲を実施した集落における回答者、(2) 平成 30 年度から令和 3 年度に捕獲を実施しなかった集落における回答者を分け、被害意識の回答割合を把握した。それらを比較した結果を図 1-8 に示す。

捕獲を実施した地域としていない地域において、令和 4 年度と令和元年度とを比べると、被害意識の「増加」の回答割合は、増加がみられるものの、捕獲を開始した直後の平成 30 年度を比べると、「増加」の回答割合は、水田は捕獲あり 11.4 ポイント減少、捕獲なし 0.6 ポイント増加しており、畑は、それぞれ 8.6 ポイント、2.6 ポイント減少していることから、捕獲開始直後から見ると、被害意識の低減は見られる。対して、「減少」の回答割合は、水田においては、捕獲あり 2.4 ポイント増加、捕獲なし 1.3 ポイント増加、畑においては、それぞれ 2.2 ポイント減少、0.2 ポイント増加し、捕獲の有無が被害意識の「減少」にまでは結びついていない。

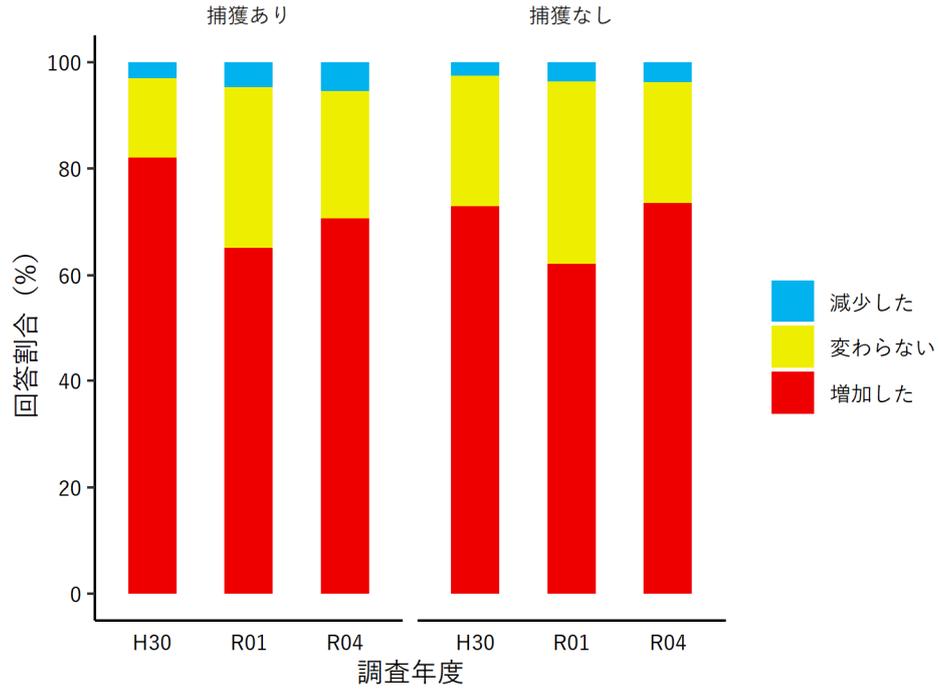
表 1-2 捕獲の有無による被害意識の変化（水田）

	捕獲あり			捕獲なし		
	H30	R01	R04	H30	R01	R04
減少した	3.0%	4.7%	5.4%	2.5%	3.6%	3.8%
変わらない	14.9%	30.2%	23.9%	24.5%	34.2%	22.6%
増加した	82.1%	65.1%	70.7%	73.0%	62.2%	73.6%

表 1-3 捕獲の有無による被害意識の変化（畑）

	捕獲あり			捕獲なし		
	H30	R01	R04	H30	R01	R04
減少した	6.3%	2.2%	4.1%	3.6%	4.0%	3.8%
変わらない	17.2%	32.1%	27.8%	25.5%	34.5%	27.9%
増加した	76.6%	65.7%	68.0%	70.9%	61.5%	68.3%

水田



畑

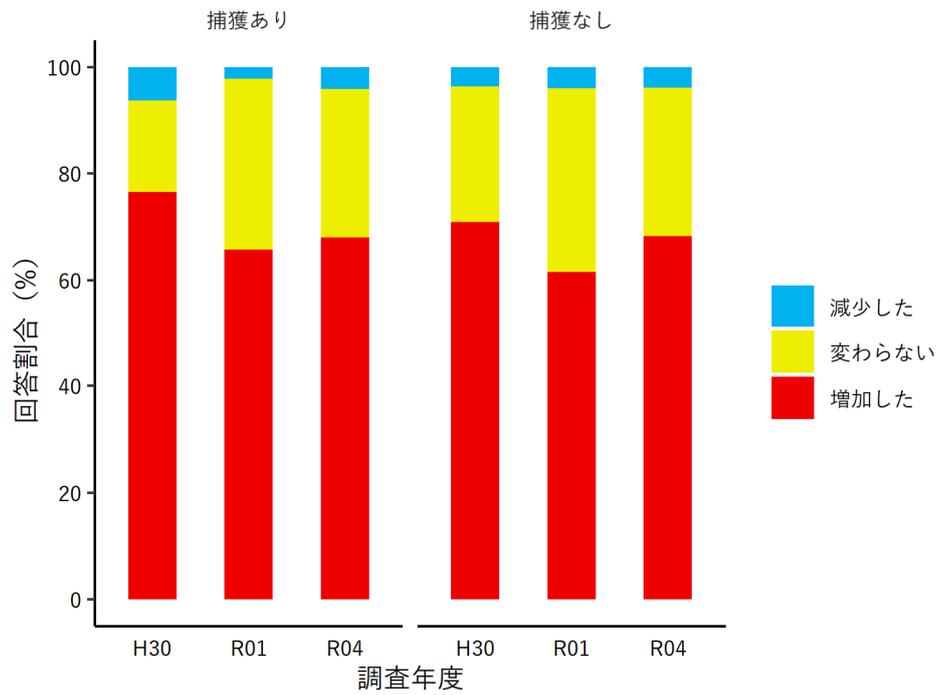


図 1-8 捕獲の有無による被害意識の変化

1.3.5. 被害面積

1.3.2. で「被害がある」と回答したものを対象に、農業被害面積の集計結果を表 1-4、図 1-9 に示した、また、比較のため過年度調査結果を図 1-9 に示した。

被害面積は水田が 5,797 a、畑が 1,542 a であった。

地区別の被害面積は水田では田原地区が最も多く (1,454a)、次いで柳生地区 (1,350a) であった。畑では柳生地区が最も多く (527a)、次いで鼓阪地区 (218a) であった。

地区別の耕作面積に対する被害割合を地区別に見ると、水田では帯解地区が最も高く (42.5%)、次いで柳生地区 (30.0%)、東里地区 (29.7%)、鼓阪地区 (28.1%) であった (回答数が 5 以下の佐保川地区、佐保地区を除く)。畑では鼓阪地区が最も高く (43.0%)、次いで東市地区 (41.2%)、精華地区 (37.6%) であった (回答数が 5 以下の済美地区、佐保地区を除く)。

平成 30 年度 (2018 年度) 調査結果と比較すると、水田では被害面積割合が増加した地区が増え、畑では被害面積割合が減少した地区が増えた結果となった。

表 1-4 農業被害面積(a)と耕作面積に対する被害割合(%)

	水田					畑				
	被害 面積(a)	耕作 面積(a)	被害割合(%)			被害 面積(a)	耕作 面積(a)	被害割合(%)		
			R4	R1	H30			R4	R1	H30
東里地区	665.9	2242.1	29.7	22.4	23.5	109.2	497.3	21.9	25.4	33.3
田原地区	1454.2	6719.4	21.6	16.7	22.1	157.9	983.3	16.1	33.2	13.9
狭川地区	120.4	788.0	15.3	7.1	11.6	22.4	131.5	17.0	10.8	13.5
鼓阪地区	262.0	934.0	28.1	18.2	9.2	217.5	506.1	43.0	28.8	40.7
飛鳥地区	108.1	484.0	22.3	2.5	22.7	24.7	167.0	14.8	4.5	28.0
柳生地区	1350.0	4478.1	30.1	14.2	17.1	527.4	3700.5	14.3	11.2	10.2
大柳生地区	505.3	2320.7	21.8	21.7	23.8	70.3	295.0	23.8	30.1	36.8
佐保川地区	6.0	20.0	30.0	0.0	0.0	10.0	100.0	10.0	0.0	0.0
精華地区	261.7	1187.9	22.0	27.5	25.9	183.5	488.7	37.6	18.2	42.3
佐保地区	7.5	25.0	30.0	0.0	15.4	15.4	22.2	69.4	13.9	14.3
済美地区	2.3	28.2	8.2	0.0	0.0	10.0	13.2	76.1	0.0	0.0
東市地区	369.9	1727.8	21.4	7.6	21.0	97.5	236.8	41.2	21.7	41.8
帯解地区	594.9	1400.0	42.5	—	—	90.7	619.6	14.6	—	—
不明	89.0	230.0	38.7	6.5	10.4	5.6	18.0	31.1	4.7	13.0
総計	5797.2	22585.2	25.7	15.3	20.2	1542.1	7779.2	19.8	22.4	21.4

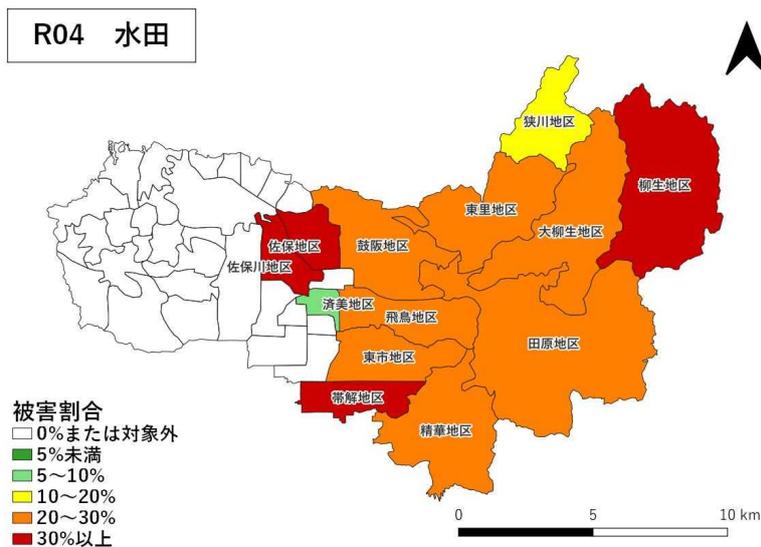
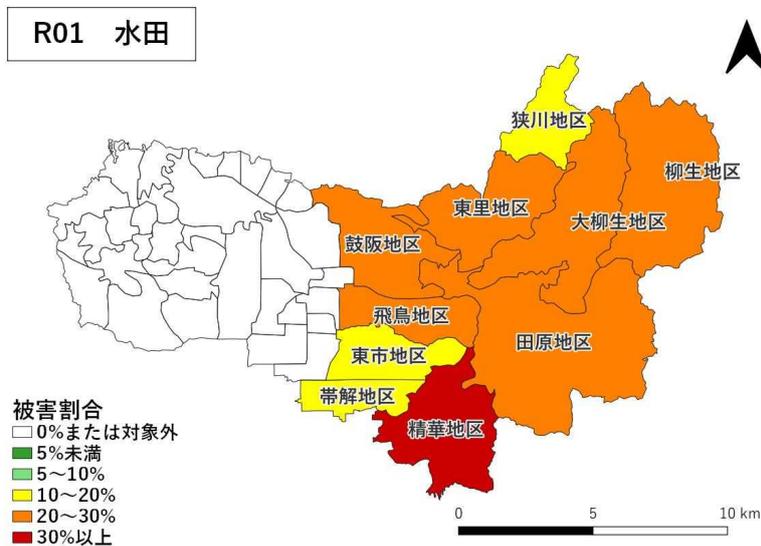
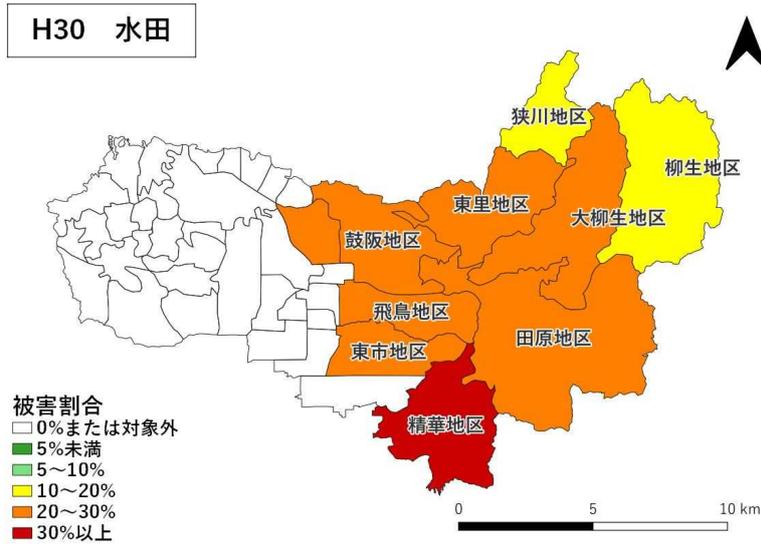


図 1-9 被害割合（水田）

※アンケート対象地区のうち、着色していない地区は被害の報告がなかった。

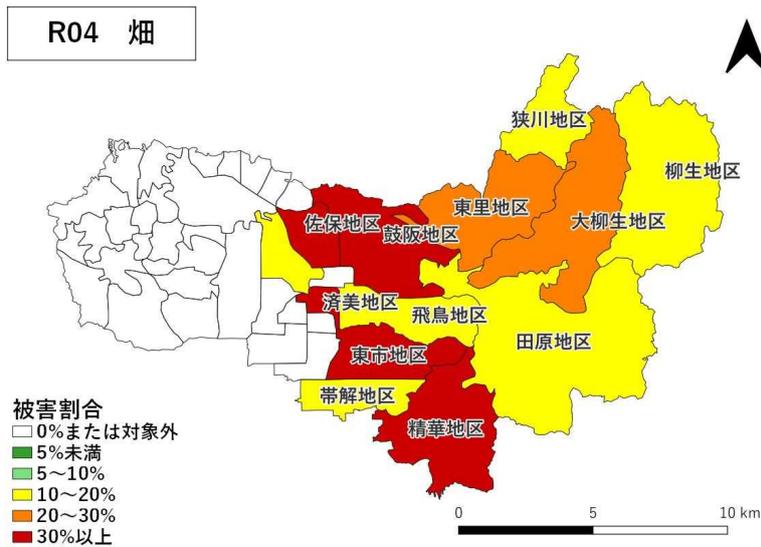
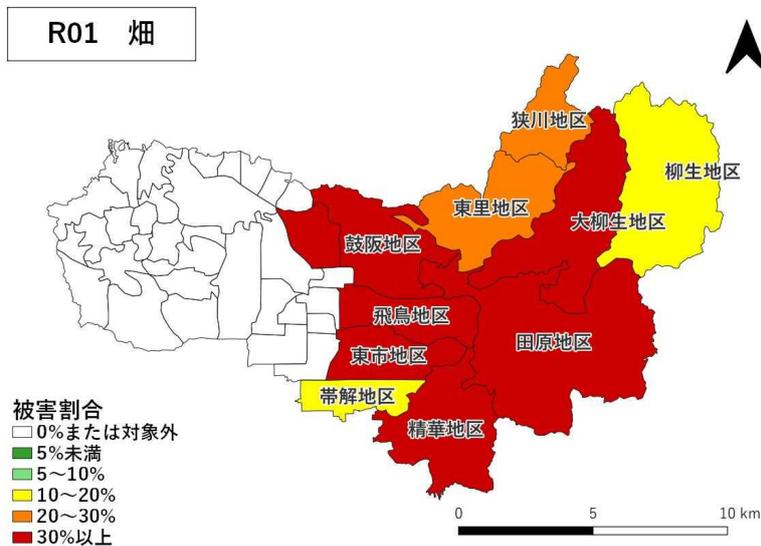
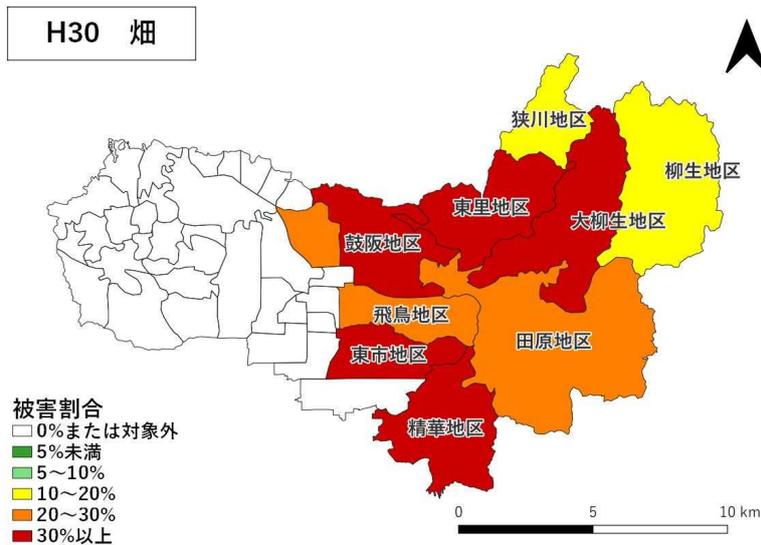


図 1-10 被害割合（畑）

※アンケート対象地区のうち、着色していない地区は被害の報告がなかった。

2. 令和3年度設置防鹿柵の効果検証調査

令和3年度に設置した防鹿柵（柵コード：R03-1）の設置箇所及びその周辺において、農業被害軽減効果の検証調査を行った。調査は、防鹿柵設置箇所の農家を対象とし、設置前後の被害状況、防鹿柵の維持管理の実施状況等について、ヒアリング及び現地調査により把握した。

2.1. 令和3年度設置防鹿柵の概要

令和3年度に設置した R03-1 は D 地区に位置する奈良市奈良阪町の水田に、令和3年2月～3月に設置した（図 2-1）。設置した柵の総延長は 404.5m、このうちフェンス長は 348.88m、入口は 55.62m となった。

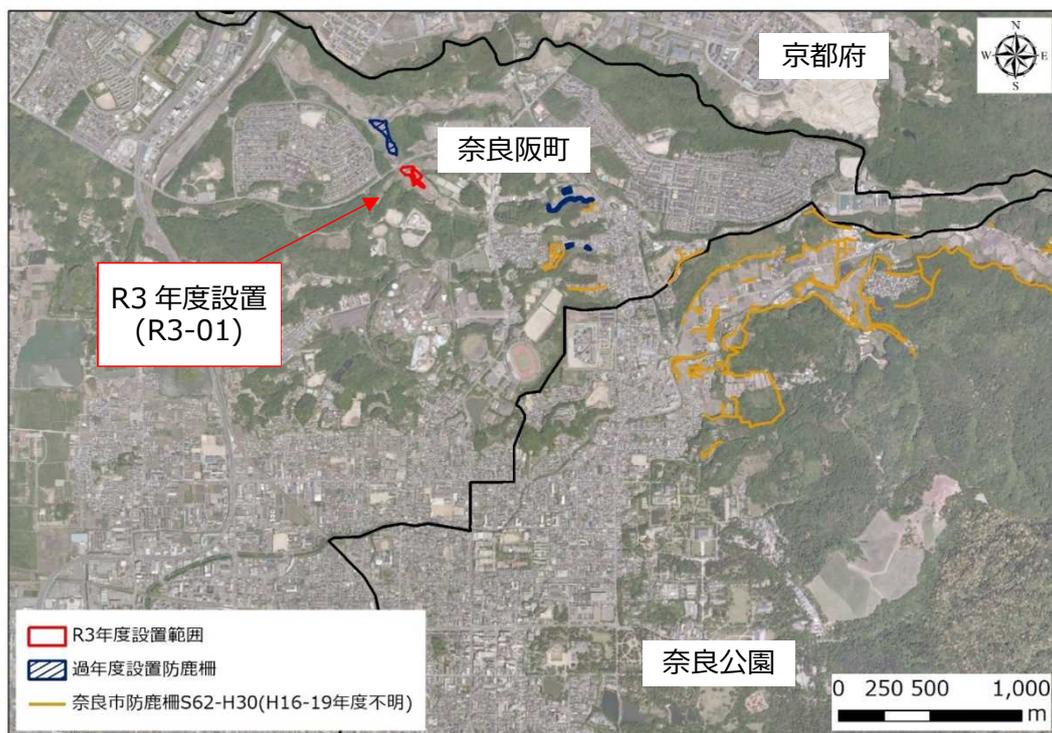


図 2-1 効果検証の対象防鹿柵設置箇所（赤線の箇所）

【耕作地】

防鹿柵設置場所の耕作地は、エリア1が畑地、エリア2が水田、エリア3が畑地と水田となっており、水稻及び各種野菜が耕作されている。耕作面積は 0.67ha である。

【周辺環境】

防鹿柵設置場所は、東西及び南側が山林で、北側はならやま大通りとなっている。

耕作地の中央に水路が流れ、水路は3面張りであり、川幅4m、深さ1.5m程度あった。水路には橋がかけられており、人及び農業機械の出入りが行われる。

南西の山林内には過去に防鹿柵の設置が行われたが、ナラ枯れと台風で樹が倒れ、一部が破損した。

【シカによる被害状況（防鹿柵設置前の聞き取り結果）】

- ・シカは周囲山側から侵入し、樹林地境界付近にシカの痕跡が多数確認された。
- ・被害は水稲及び野菜類であり、水稲は6月の分けつ期及び9月の収穫期に被害が集中する。6月の分けつ期における苗の食害よりも、9月の収穫期における穂の食害及び踏みつけによる被害が特に重大と感じており、機械による収穫が困難になる他、機械の破損にもつながる。
- ・畑地では、春にショウガ、レタス、キャベツ、ブロッコリー、ナス、カボチャ等が、秋及び冬にカブ等が被害にあった。令和2年度の被害が特に甚大で、ショウガでは8割、レタス、キャベツ、ブロッコリー、カブに至っては全く出荷できなかった。
- ・防鹿柵設置場所周辺ではイノシシの分布はない。

【防鹿柵設置により期待する効果】

防鹿柵設置により、東側及び西側の山林からのシカの侵入を防ぎ、農業被害軽減を期待する。

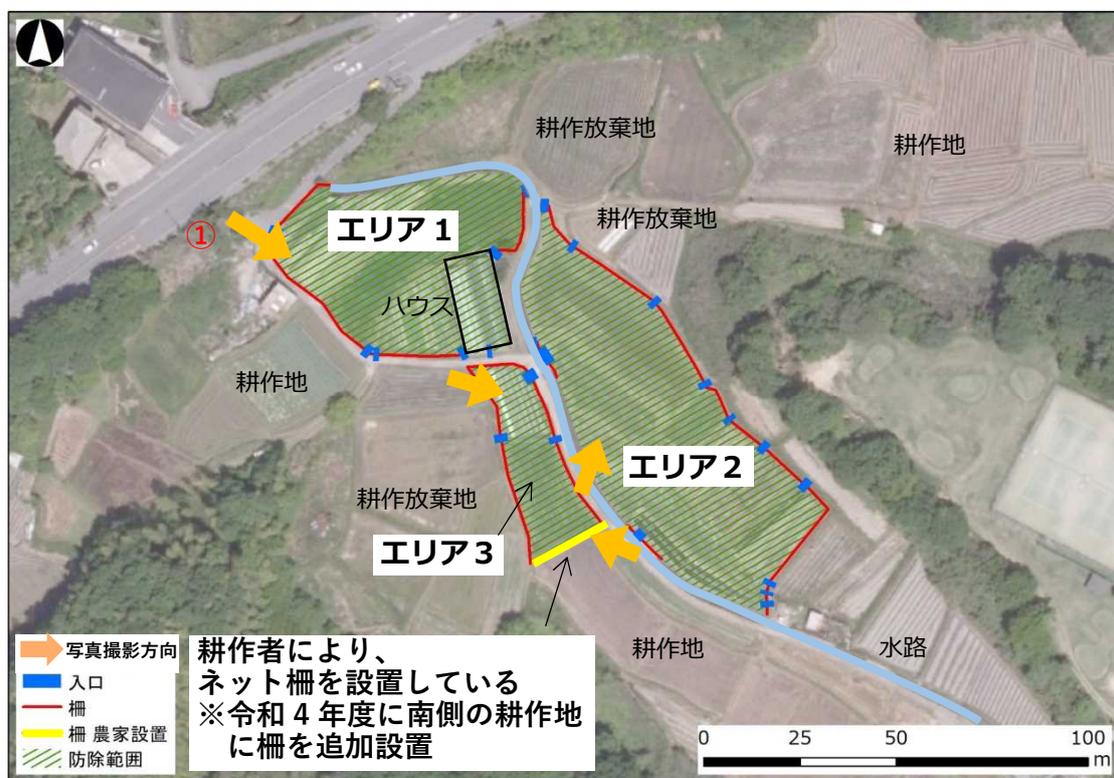


図 2-2 令和3年度設置防鹿柵（奈良阪町）※黄矢印は写真1の撮影方向



③エリア3

④エリア3
16 耕作者によるネット柵



写真 2-1 防鹿柵設置後の状況（撮影日：令和4年10月13日）

2.2. 効果検証の方法

防鹿柵の効果検証調査は、令和4年10月13日、防鹿柵設置箇所において、耕作者2名（A氏：エリア1、B氏：エリア3）の立会いのもと、現地確認をしながら、耕作者へのヒアリングにより以下の項目を把握した。

【現地における確認項目と実施方法】

- （1）シカによる被害等の現地確認（防鹿柵設置箇所）：現地確認
 - 1）防鹿柵の破損状況
 - 2）防鹿柵内への侵入状況
- （2）農作物被害状況（防鹿柵設置箇所）：耕作者へのヒアリング
 - 1）防鹿柵設置前と比較した被害傾向
 - 2）被害時期
 - 3）被害程度
- （3）農業被害対策：耕作者へのヒアリング
 - 1）対策の維持管理頻度
 - 2）対策の満足度
 - 3）対策の課題
 - 4）防鹿柵以外の被害対策
- （4）地域（町内）における農作物被害傾向：耕作者へのヒアリング

2.3. 結果

2.3.1. シカによる被害等の現地確認

2.3.1.1. 防鹿柵の破損状況

エリア2では、北側入口ネットの引きちぎりによるネットの破損が確認された（写真 2-2）。確認された位置は高さ 60～80 cm程度で、大きさは幅、高さとも 20 cm程度であった。

2.3.1.2. 防鹿柵内への侵入状況

エリア1：防鹿柵設置後シカの侵入はなかった。

エリア2：現地確認では確認できなかったが、耕作者によると水路から侵入されたという。

エリア3：耕作者により設置されたネット柵（図 2 黄色部分）の下部からのシカの侵入痕跡が2箇所確認された（写真 2-2）。当該箇所は今年度新たに防鹿柵を設置し、農地が囲われた。



写真 2-2 左：エリア2におけるネットの破損

右：エリア3における耕作者によるネット柵下部からの侵入痕跡

※当該箇所は今年度新たに防鹿柵を設置し、農地が囲われた

2.3.2. 農作物被害状況

2.3.2.1. 防鹿柵設置前と比較した被害傾向

エリア1については被害がなくなった。エリア2及びエリア3についても被害はあったが、農作物の収穫量が増えたと感じていた。

2.3.2.2. 被害時期

エリア2では4～5月頃にジャガイモが被害にあった。エリア3では春季まではシカの侵入はなかったが、7月のネット柵下部侵入以後、継続的に侵入された。エリア3ではナスビの食害及びショウガの踏みつけがあった。その後、耕作者自身で鉄管をネット下部に入れ、侵入はなくなった。

2.3.2.3. 被害程度

被害程度は、エリア1については被害はなくなった。エリア2及びエリア3についても、防鹿柵設置前と比べかなり減ったと感じていた。エリア3については、昨年の防鹿柵設置前には、出荷ができない程の被害があったが、今年は十分出荷できる量が確保できているという。数量については、体感としてシカの被害がない時の収量を10としたとき、9以上は収量が確保できたということであった。

2.3.3. 農業被害対策

2.3.3.1. 対策のメンテナンス頻度

対策のメンテナンスは、水路等の見回りの度、最低週1回に点検を行っていた。

2.3.3.2. 対策の満足度

対策については、満足しているということであった。

2.3.3.3. 対策の課題

現地確認及びヒアリングの結果、農業被害対策の課題として、以下の課題があげられた。

【現地確認から得られた課題】

- ・ エリア2における入口ネットの破損
- ・ エリア2における水路からの侵入

【耕作者から指摘された課題】

- ・ エリア3の耕作者によるネット柵からの侵入防止
- ・ エリア3の入口の操作性
- ・ 草刈りの負担増

2.3.3.4. 防鹿柵以外の被害対策

防鹿柵以外の被害対策は特にしていないということであった。

2.3.4. 地域（町内）における農作物被害傾向

地域（町内）における農作物被害傾向は、防鹿柵設置箇所の外側で継続して発生しているという。防鹿柵を設置することで柵内における被害はなくなるが、柵外での被害は継続するので、防鹿柵を設置していない耕作者からの印象が悪くなるかもしれないと懸念を抱いていた。

3. 捕獲個体調査（栄養状態の把握）

3.1. 方法

捕獲個体の記録用紙に記載されていた捕獲時の体重について雌雄別、年齢別に集計し比較した。

3.2. 結果

体重の平均値について、雌雄別、年齢別に示した（図 2）。雌雄ともに各年齢区分で過年度と大きな違いはなかった。

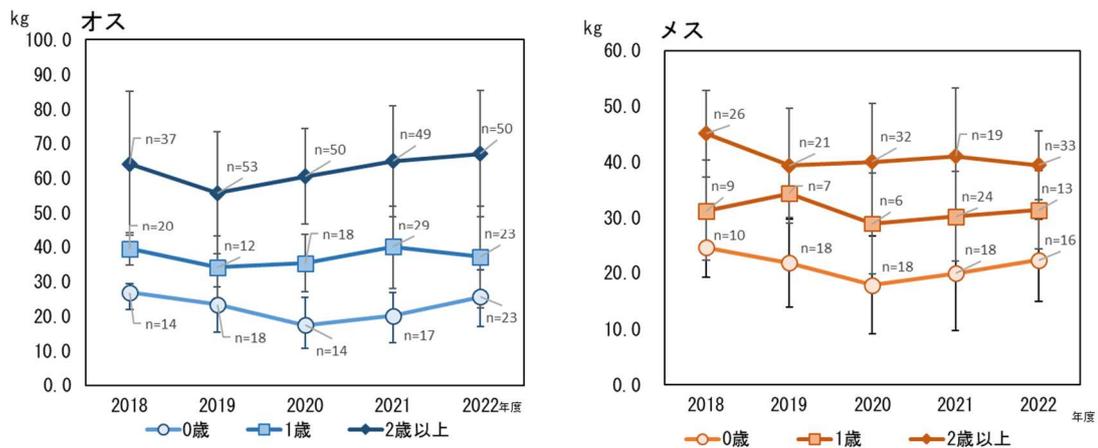


図 2 捕獲個体の雌雄別・年齢別の平均体重の変化

※ 点は平均値を、点から上下に延びる直線は標準偏差を表している。

アンケート調査票（表）

令和4年度調査

※用紙は表面と裏面があります

記入日 令和4年 月 日

鹿による農作物被害対策に関するアンケート（表面）

被害の対象期間：令和3年1月～令和3年12月(昨年になります)

質問1 あなたの世帯のことについて、うかがいます

お住まい	奈良市	町
営農形態	<input type="checkbox"/> 専業農家	<input type="checkbox"/> 兼業農家

質問2 あなたの耕作地のある場所をすべて挙げてください
また、それらの作付面積の合計値をお答えください

耕作地のある場所	奈良市	町		
作付面積(合計値)	水田	アール	畑	アール

※ 1アールは、10m×10m (100㎡)

質問3 あなたの耕作地では、鹿による農作物被害がありますか

鹿の被害	<input type="checkbox"/> 被害がある ⇒質問4へ	<input type="checkbox"/> 被害がない ⇒質問5へ
------	--------------------------------------	--------------------------------------

質問4 あなたの耕作地の鹿による農作物被害状況を水田と畑にわけてお答えください。

【水田】

耕作目的	<input type="checkbox"/> 販売用	<input type="checkbox"/> 自家消費	※ 主なものにチェックして下さい				
田植え時期	月			収穫時期	月		
被害の見られる時期 ^{※1}	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
被害面積割合 ^{※2}	%						
被害傾向について	令和元年と比較して <input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した						

【畑（果樹、観賞用植物を含む）】

耕作目的	<input type="checkbox"/> 販売用	<input type="checkbox"/> 自家消費	※ 主なものにチェックして下さい									
被害作物上位3種	1.	2.	3.									
被害の見られる時期 ^{※1}	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
被害面積割合 ^{※2}	%											
被害傾向について	令和元年と比較して <input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した											

※1 被害時期は、被害が多い月をお答えください（複数回答可）

※2 被害程面積割合は、作付面積のうち被害のあった面積割合を10%単位でお答えください

質問・問合せ 奈良県奈良公園室 (TEL 0742-27-8028) 担当：池田、片桐、高見

※用紙は表面と裏面があります

鹿による農作物被害対策に関するアンケート（裏面）

質問5 あなたの耕作地では、鹿による農作物被害への対策をおこなっていますか

被害対策	<input type="checkbox"/> 対策をしている ⇒質問6へ	<input type="checkbox"/> 対策をしていない ⇒質問7へ
------	--	---

質問6 あなたが実施している農作物被害への対策について、うかがいます

耕作地に防護柵を設置していますか	<input type="checkbox"/> すべてしている(100%) <input type="checkbox"/> 概ねしている(99~75%) <input type="checkbox"/> 半分程度している(75~25%) <input type="checkbox"/> 一部している(25~1%) <input type="checkbox"/> 全くしていない(0%)
設置されている場合、最も多くの面積を囲っている防護柵の種類を1つお答えください	<input type="checkbox"/> ワイヤメッシュ柵 <input type="checkbox"/> 金網柵 <input type="checkbox"/> トタン <input type="checkbox"/> ネット柵 <input type="checkbox"/> 電気柵 <input type="checkbox"/> その他()
防護柵のメンテナンス頻度は、どれぐらいですか	<input type="checkbox"/> 毎週 <input type="checkbox"/> 毎月 <input type="checkbox"/> 2~3ヶ月毎 <input type="checkbox"/> 半年毎 <input type="checkbox"/> 1年毎 <input type="checkbox"/> 1年以上 <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> その他()
防護柵の効果に満足していますか	<input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> やや満足 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> 不満
防護柵以外で、取り組んでいる農作物被害対策はありますか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> くず野菜・廃棄果樹等の適切な処理 <input type="checkbox"/> 環境整備（耕作地周囲の藪の刈払い等） <input type="checkbox"/> 追い払い（花火・犬等） <input type="checkbox"/> 忌避（爆音機・忌避剤・光・ラジオ等） <input type="checkbox"/> その他()

質問7 地域（町内）における鹿による農作物被害と対策について、うかがいます

地域（町内）における被害の傾向をお答えください	<input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した
地域共同（複数人）で防護柵を設置していますか	<input type="checkbox"/> 設置済 <input type="checkbox"/> 設置予定（今年） <input type="checkbox"/> 設置予定（来年以降） <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 予定はない <input type="checkbox"/> わからない
地域（町内）で防護柵のメンテナンスについて話し合っていますか	<input type="checkbox"/> 継続してある <input type="checkbox"/> 時々ある <input type="checkbox"/> 過去にある <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> わからない
話し合いは重要と思えますか	<input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> ややそう思う <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> あまりそう思わない <input type="checkbox"/> そう思わない
地域共同防護柵の効果に満足していますか	<input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> やや満足 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> 不満

質問8 令和元～2年の防護柵設置状況について、うかがいます

令和元～2年に新たに防護柵を設置していますか	<input type="checkbox"/> はい（総延長： m / <input type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 共同） <input type="checkbox"/> いいえ
------------------------	---

質問9 鹿による農作物被害に関するご意見等がありましたら、記入してください

ご協力ありがとうございました。

質問・問合せ 奈良県奈良公園室（TEL 0742-27-8028） 担当：池田、片桐、高見